

モノのインターネット(IoT)が整備され、日々産み出されるビッグデータをAIが処理するデジタル社会において、地域の生活を豊かにしてくれる「デジタル農業」と「フードシステム」の構築が求められています。一見地域のシステムに見えても、その利益は中央にさらわれるということも多い中で、この是正のためにも「食・農エコシステム」の確立は急務とも言えるものです。

弱者のツールとしてICTをとらえ、地域がノードとなり農業起点で消費者まで「おいしい食」をつなぐ、農業が儲かり、消費者に地域の食が届く理想の「食・農エコシステム」に向けた新しい動きに触れてみたいと思います。

JSAI

農業情報学会 2018年会シンポジウム

「農業ICTの 次の展開に向けて」

日時：平成30年5月16日(水) 14:30~17:30

場所：東京大学弥生講堂一条ホール

コーディネーター：
亀岡孝治（三重大学）

学生で参加希望者は
細井先生にメール
してください。



協賛：
アグリコクーン農学における情報利用研究FG
(act117)

問い合わせ：
細井文樹(生物・環境工学)
ahosoi[at]mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

プログラム：

- | | |
|-------|---|
| 14:30 | はじめに 亀岡孝治(三重大学) |
| 14:40 | 招待講演
「地域の農業の活性化に向けたLoRaWANの可能性」
池田博樹(株式会社TrexEdge) |
| 15:10 | 招待講演
「施設栽培における人工知能(AI)の新たな展開」
峰野博史(静岡大学;JSTさきがけ研究者) |
| 15:40 | 休憩 |
| 15:50 | 特別講演
「農業の事業性評価が産み出すインパクト」
田井政晴(株式会社 事業性評価研究所) |
| 16:30 | 招待講演
「農業データ連携基盤:WAGRI」
神成淳司(慶應義塾大学) |
| 17:00 | パネルディスカッション |